



訪日外国人INDIVIDUAL（個人）ツアー

○本社所在地：京都府京都市右京区山ノ内宮脇町 15 番地 1 クエスト御池 2 F

○事業概要：京都を拠点として主に欧米地域からの訪日富裕層外国人旅行客を専門に取り扱う旅行業者

○常時使用する従業員：37人
（グループ全体・2024年12月期）

○現在の売上高：28億円
（グループ全体・2024年12月期）

○法人番号：3130001029733

○Web：https://windowstojapan.com/

企業理念・100億宣言に向けた経営者メッセージ



代表取締役
ルガシ アブラハム

「真の日本文化に触れてもらいたい」

ツーリズムとは、旅行する人、受入れる側の相互作用。私たちは、本当に日本の文化を理解しようとするゲストを地域に連れて行く責任がある。地域の生活や文化を理解し、感動すれば、その文化を守りたいと考えるようになる。このような、双方にとってバランスのとれたツーリズムを目指します。

売上高100億円実現の目標と課題

実現目標

(株)日本の窓のインバウンド富裕層向け旅行業の強みを活かし、(株)REVIVEが「顧客層の求める」地方の観光開発を外国人目線で行い、「自ら旅行客を送客し、自らサービスを提供する」囲い込み戦略で、インバウンド専門総合観光業に成長する。年率12%程度の成長により、2034年度 グループ売上高100億円（(株)日本の窓 71億円・(株)REVIVE 34億円）の実現を目指す。

課題

- ・(株)日本の窓（旅行業）における営業・ツアー手配面における生産性向上（CRM・AIの有効活用）
- ・国内における観光に適した特定地域の確保
- ・多大な設備投資を伴うため、投資家による資金確保
- ・実施体制、マネジメント体制の構築

売上高100億円実現に向けた具体的措置

目指す成長手段

＜旅行事業＞

- ・スタッフの専門性を顧客への価値創造に専念できるようAIシステムを活用したシステムを導入し環境を整える。
- ・増加するインバウンド富裕層の旅行ニーズへの対応可能な体制を整備する。

＜観光事業＞

- ・インバウンド顧客層が好む地方の観光地開発を行い、観光施設（宿泊、飲食、イベント運営）等の事業を行う。

実施体制

- ・経営者の右腕となる人材の育成
- ・各地域拠点におけるマネージャーの確保・育成
- ・各地域拠点の企業との連携
- ・特定の地域における運営体制の確保
- ・各地域ごとの事業別会計ができる経理体制の構築
- ・各拠点の情報を吸い上げるコミュニケーションツールの構築

売上高100億円実現目標とグループ体制



株式会社日本の窓
(旅行事業)

株式会社
REVIVE
(観光事業)

<宿泊・飲食・小売・イベント>

(2025年1月新設子会社)

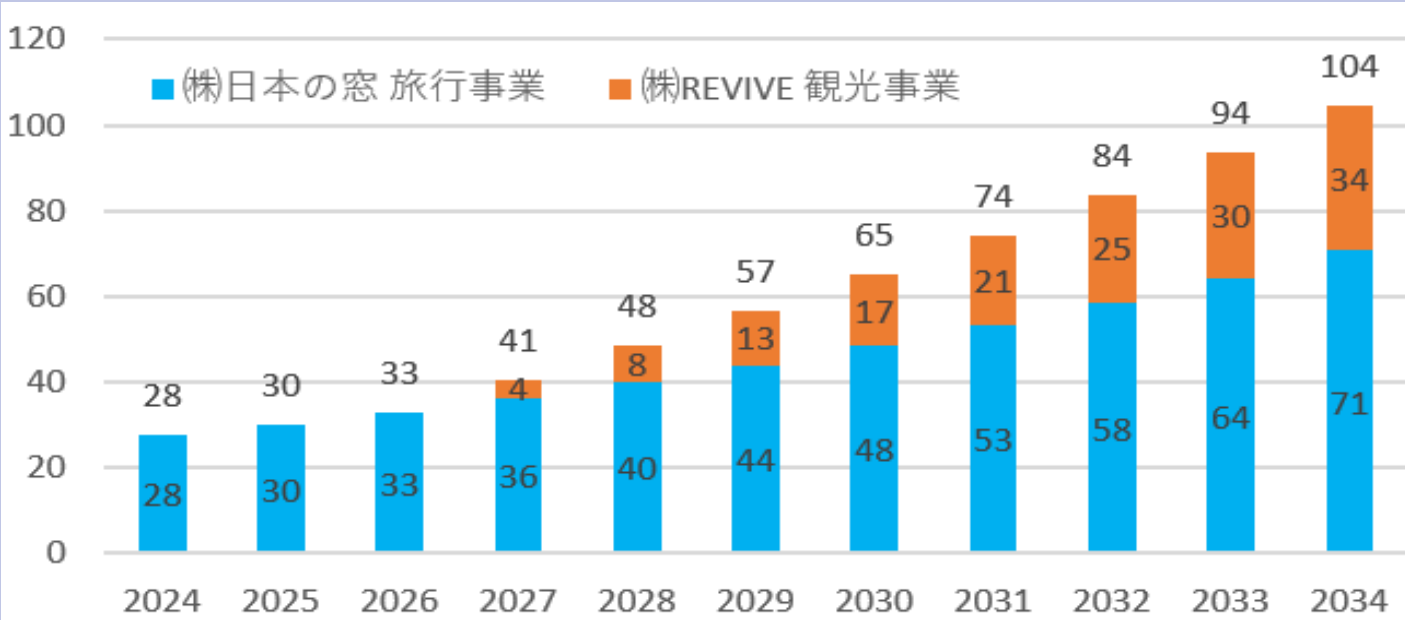


インバウンド旅行業の中期成長戦略（株式会社日本の窓）

現在人員不足とツアー造成が人力に頼っているため、インバウンド需要に供給が追いついておらず、2025年中に導入予定のAI強化型ERPシステムの実装により生産性を高めることで年間最大取扱ツアー数を増やすとともに、株式会社REVIVEの地域活性化プロジェクトによる(株)日本の窓グループのブランド向上を図り、2034年に売上高71億円の達成を目指す。

地域活性化プロジェクト事業の中期成長戦略（株式会社REVIVE）

地方の日本文化と地域コミュニティを再興するため、2025年に第1弾の地域活性化プロジェクトである間人『TAIZA』（京丹後市）プロジェクトを開始し、2027年より事業化を予定。旅行業と観光事業（地域活性化プロジェクト事業）の相乗効果を図り、富裕層インバウンド観光客に需要のある未開拓地域を選定し、旅行客の誘客を強化しつつ、「工芸アート」をテーマにした観光施設、宿泊施設への設備投資を実施し、国内8カ所に『TAIZA』モデルの水平展開を行うことで、2034年に売上高34億円の達成を目指す。



会社概要と代表者経歴



京都本社ビル

ルガシ アブラハム（アヴィ ルガシ）

株式会社日本の窓 代表取締役
株式会社REVIVE 代表取締役
株式会社DENTO 代表取締役
特定非営利活動法人DENTO 代表理事

- 1964 – イスラエル生まれ。
- 1989 – 日本初来日 1年半滞在する。
- 1994 – エルサレム・ヘブライ大学東アジア人類学卒業。
- 1994 – イスラエル大手旅行代理店で上級公認ガイドとして、シルクロードを含むアジア全域での旅行事業に関わる。
- 1995 – 再来日、以降日本に居を構える。3年間禅寺で修行。弓道二段、陶芸、盆栽をはじめ、多くの日本の伝統文化を学ぶ。
- 2005 – 「日本の窓 Windows To Japan」社を京都で設立。
現在では体験観光（イマージュン旅行）のトップ企業として知られる。
- 2013 – 「日本の窓 Windows To Japan」社は、欧米のハイエンド観光エージェントである、Virtuosoをはじめ、Signature、Serandipians等の公認オペレーター（DMC）として多くのハイエンド観光客を案内している。
アヴィはその日本での特殊な経験を基に、日本全国の地域文化や、かけがえのない価値を感じられる旅行体験を創出している。
- 2021 – シーナリーインターナショナル代表 齋藤峰明（元エルメスインターナショナル・副社長）、株式会社日吉屋代表 西堀耕太郎と共同で株式会社DENTO及びNPO法人DENTOを設立。
伝統工芸の職人を訪ねる特別な旅「DENTO 伝燈」クラフトツーリズムを富裕層インバウンド客に提案。
同事業の収益を元に伝統工芸の事業承継、後継者育成等に投資するサポートツーリズムを提唱。米大手旅行雑誌 Travel & Leisureの「Global Vision Award 2024」を受賞（日本企業で唯一の受賞）。世界的な評価を得る。
- 2025 – 株式会社REVIVE設立。
富裕層インバウンド観光事業で培った経験とネットワークを活かし、TAIZAプロジェクトを企画。
「真の日本文化に触れる旅」を目指し、伝統文化の継承と発展、地域社会と一体となった観光地開発に取り組む。



主な提携先（世界的富裕層向け旅行業ネットワーク）

※株式会社日本の窓は、世界的な大手3大旅行業ネットワーク Virtuoso、Signature、Serandipians 認定の国内唯一のDMC



間人『TAIZA』(京丹後市)地域活性化プロジェクト



株式会社日本の窓が、グループ会社である株式会社REVIVEを設立して地元提携先企業やコミュニティと、協業体制で取り組む、第1号地域活性化プロジェクト事業である『TAIZA』(京丹後市間人地区：総投資額13億円)は、文化庁の認定する「日本遺産」(300年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊)に認定された絹織物の産地である京都府京丹後市に立地する絹織物工場「中健織物」の跡地建物群を段階的に中核施設として改修を行い、展示イベントスペース、工房、レストラン、ギャラリー/物販店舗等として活用し、同時に近隣の空き家(町家)10棟を改装して宿泊施設の整備も行い、2027年より開業を予定。

展示イベントスペースでは、主に「工芸」にスポットを当てたアートビエンナーレイベントの実施し、域内外から発信力の高いアーティスト、クリエイター、デザイナーを呼び込み、地域全体の訴求力を高め、観光客・流入人口の増加を目指す。

若手職人向けのレンタル工房や、コワーキングスペースも整備して伝統工芸の事業承継を支援し、レストランでは、間人蟹をはじめ、地元の豊富な海産物やオーガニック野菜、地酒等を用いて、創作和食レストランを開業し、丹後の食の魅力も訴求。ギャラリー店舗では、展示される工芸アート作品の販売や、地元の織物を使ったファッション雑貨等、ハイセンスなグッズを取り揃えてインバウンド客にもアピールし、宿泊収入・イベントチケット売上、飲食、物販売上の4本の柱で収益を確保する。

旅行業と地域活性化プロジェクト事業の相乗効果を図り、旅行客の誘客を強化しつつ、宿泊施設の追加整備を行い売上の向上と地域経済波及効果を狙い、その後段階的に8年で国内8カ所に『TAIZA』と同種の地域活性化プロジェクトを展開し、『TAIZA』モデルの水平展開を図り、2034年にはグループ売上高100億円を目指す。

間人プロジェクト構想

ミッションを実行しビジョンを達成するための新たな事業体を設立して事業を実施します。
 同法人では京丹後市丹後町間人にある「中健織物」の工場と寮を譲り受けて所有者となり、
 同施設を改修し、新たな機能を持ったスペースへと生まれ変わらせませす。



- ①分散型ホテル
- ②レセプション・ギャラリー・レストラン
- ③イベント・コミュニティスペース
- ④展示イベントスペース
- ⑤移住者・見習い職人試住スペース
アーティストインレジデンス・ルーフトップバー
- ⑥庭園スペース (建物撤去予定)

01_プロジェクト構想



積極的な地域活動・地域参加



間人の水産業と繋ぐ

- 間人の暮らしの根幹を担う「漁業」をプロジェクトに取り入れます。
- 講演会、間人ワークライフセミナー(例えば、漁師が間人の漁について全国の人に話す場を設けるセミナー)等のコミュニティプロジェクトの実施を検討しています。
- 観光客や漁業を学びたい人向けの漁業体験ツアーを組み実施することを計画しています。

地元の文化と食事を繋ぐ

- 地元の伝統と料理の保存を目指します。間人地域には豊富なお祭り行事があり、面白い郷土料理が食べられます。これは観光に訪れる人にとっても魅力的なポイントです。
- 例えば、郷土料理を作るワークショップや、地域のお祭りの準備をサポートすることで地域の歴史を学ぶワークショップなどを通して、地元住民、新規移住者(移住検討者)、長期滞在者、短期観光客とのコラボレーションを創出します。
- 分散型ホテルの宿泊客には、地元の魚や野菜を提供します。またホテルのインテリアデザインには、丹後ちりめんをはじめとする伝統技術を取り入れた空間づくりを目指します。

08_コミュニティエンゲージメント